

二人の河野

濱野 修

或る朝の事であつた。

夜ふかしをする割合に、朝は可成り早くか

ら眼が覚めこします。癖の河野は、其の朝も、

~~朝~~者上り境の障子が、^{青白}明の北窓の曇り硝子

を透して射しこむ。青白の光線が、大分明るく、

のを感じながら、枕もとに重畳で置きかへてあ

つちその朝の新聞の方に手を伸ばした。

不精には、はがした枕を横に押しやつて、腹

這ひになつた。たま、引寄せた新聞の上には、二

三通の端書と封書が載つてゐた。彼は無造作

に、よく、表書きも改めおに封を裂いた。安

いほ、い茶色の四角な洋封筒であつた。

此処で必要な此の手紙の内容を讀む前に、

豫じめ、断はつてをかきかへる。はるら、二とが

ある。と、ふ、ふ、河野が其の封を裂く前に